

あげる。

引用文献

- 野村周平, 1993. 福岡県の水生甲虫に関する資料. 新筑紫の昆虫, (2): 5-21.
- 松井英司, 1992. 天草諸島の水生甲虫目録. 熊本昆虫同好会報, 38(1): 1-20.
- 岩崎郁雄・木野田毅, 1995. 宮崎東諸県広域圏における水生昆虫類の新知見(半翅目・甲虫目), pp. 101-111. 宮崎東諸県の生物.
- 林 成多・初宿成彦, 2003. 大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本: 特に希少種および絶滅危惧種について. 大阪市立自然史博物館研究報告, (57): 11-20.
- 森 正人・北山 昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 217 pp., 文一総合出版, 東京.
- 森本静子, 2010. 大阪府南部のゲンゴロウ類調査. 兵庫陸水学会, 61/62: 107-111.

(森 正人 561-0883 豊中市岡町南 1-1-10
環境科学大阪株式会社)

【短報】四国・愛媛県におけるツブスジドロムシの採集記録

ツブスジドロムシ *Paramacronychus granulatus* Nomura は日本固有種で, 本種のみでツブスジドロムシ属 *Paramacronychus* を形成する特異な種である. 主に河川原流域の細流中に生息し, 東北地方から山陰地方にかけての本州から分布記録がある (Satô, 1993; 林・門脇, 2007).

本種の四国における分布は一般的な図鑑類では示されていないが (上野ほか, 1985; 佐藤・吉富, 2005), 故・佐藤正孝博士は博士学位論文 (Satô, 1993) において, 「2exs., Ryû-no-iwaya Cave, Tokushima Pref., 2. XII. 1971, M. Yoshida」の採集記録を示しており, これが実質的に四国からの初記録になると考えられる. そしてこれ以降, 四国での採集例は見当たらない.

筆者は近年, 愛媛県から四国2例目となる本種を採集しているので, ここに報告する.

26 exs., 愛媛県四国中央市金砂町小川山久保ヶ市 (吉野川水系), 24. XI. 2008, 筆者採集・保管 (図1).

採集したのは吉野川水系銅山川支流中の川に流れ込むスギ植林内



図1. 愛媛県産ツブスジドロムシ.



図2. 生息環境.

の細流である (図2). 全体的に水量は少なく, 瀬になっている部分の水深は1~2 cm程度ときわめて浅かった. 採集は目の細かいタモ網を用いて行い, 本種は主に瀬の部分に引っかかっている落ち葉下から得られた. 同所的にアカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculata* とマルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* も採集され, 生息環境は本州で一般的に知られているものと大差ないと考えられる. 今後, 四国の他の地域からの発見が期待される.

末筆ながら, 本稿をまとめるにあたり種々ご教示いただいた, 吉富博之博士 (愛媛大学) にこの場を借りてお礼申し上げる.

引用文献

- 林 成多・門脇久志, 2007. 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 149-168.
- Satô, M., 1993. A revisional study on the superfamily Dryopoidea (Coleoptera) of Japan. 239pp. PhD Thesis, Kyoto University, Kyoto.
- 佐藤正孝・吉富博之, 2005. コウチュウ目 (鞘翅目) Coleoptera. 川合禎次・谷田一三 (編), 日本産水生昆虫・科・属・種への検索, pp. 591-658. 東海大学出版会, 東京.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II). 526pp. 保育社, 大阪.

(中島 淳 福岡県保健環境研究所)

【短報】愛媛県におけるミユキシジミガムシの初記録

ミユキシジミガムシ *Laccobius (Laccobius) inopinus* Gentili, 1980 (図1) は, ガムシ科シジミガムシ属に属する水生甲虫で主に止水域に生息する (上手, 2007). 本種は環境省版第4次レッドリストにおいて準絶滅危惧 (NT) に選定されており (環境省自然環境局野生生物課, 2012), 四国からは高知県, 徳島県で生息が確認されている (松井,



図1-2. 愛媛県初記録のミユキシジミガムシ (図1) と雄交尾器 (図2)。



図3. 本種の生息環境 (久万高原町笠方)。

1996a, 1996b). 筆者らは、愛媛県初記録となる本種を確認したのでここに報告する。本種は分布域が重なる同属のシジミガムシ *Laccobius* (*Laccobius*) *bedeli* Sharp, 1884 とよく似ているため、同定には雄交尾器を用いた (図2)。

4exs., 愛媛県上浮穴郡久万高原町笠方, 22. VII. 2012, 筆者ら採集・保管。

19exs., 愛媛県上浮穴郡久万高原町直瀬, 20. VIII. 2012, 武智採集・保管。

笠方 (標高約 720 m) の産地では、放棄水田内に形成された水溜まりから確認された (図3)。水位は浅いものの、隣接している水路から水が供給されていた。直瀬 (標高約 630 m) の産地は、段々になった数面の放棄水田にできた複数の水溜まりで多くの個体が確認された。どちらの採集地においてもドジョウが生息していたことから、本種の生息可能な水位は安定しているものと思われた。

シジミガムシの記録については、本種の誤同定である島根県の事例があり、標本に基づく再検討の必要性が指摘されている (林, 2009)。このため、実際に愛媛大学ミュージアム所蔵のシジミガムシ

とされている標本を再検討した結果、全てコモンシジミガムシ *Laccobius* (*Microlaccobius*) *oscillans* Sharp, 1884 の誤同定であることが確認された。愛媛県下におけるシジミガムシ属の記録についても同属他種の誤同定である可能性があり、記録を扱う際には注意を要する。

末筆ではあるが、標本の作成に御協力いただいた愛媛大学農学部環境昆虫学研究室の小川遼、菅谷和希両氏、本種の四国内の記録について御教授いただき、草稿を御校閲いただいた愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士に厚く御礼を申し上げる。

引用文献

- 林 成多, 2009. 島根県の水生ガムシ科. ホシザキグリーン財団研究報告, (12) : 87-121.
 上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42 (2) : 12-16.
 環境省自然環境局野生生物課, 2012. 報道発表資料 第4次レッドリストの公表について (お知らせ). (2012年11月3日参照) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>
 松井英司, 1996a. 四国で採集した水生甲虫類 (1). 北九州の昆虫, 43 (1) : 33-40.
 松井英司, 1996b. 四国で採集した水生甲虫類 (2). 北九州の昆虫, 43 (2) : 81-88.

(武智礼央 790-0924 松山市南久米町 234 番地
 サンディッシュ久米 307 号)
 (渡部晃平 700-8617 岡山市北区津島京町 3 丁目 1 番 21 号 株式会社エイト日本技術開発)

【短報】西表島から台湾カタハリナガツツハムシを記録

台湾カタハリナガツツハムシ (新称) *Aetheomorpha taiwana* Chûjô, 1952 は台湾では低山地から山地にかけて生息するが、採集例の少ないハムシである (Chûjô, 1952; 木元・滝沢, 1997)。2012年5月に西表島で林縁のスーピングで2頭を採集したが、食草の確認はできなかった。

図1に示すように、背面は黄色で、前胸の中央部に大きな黒紋、上翅の基部に黒紋、中央部と後方に



図1. 日本産台湾カタハリナガツツハムシ。